

公表：令和 4 年 3月 25日

事業所名 こどもデイサービス おひさまのくに

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%		・机の配置の工夫をしています。 ・以前より広いスペースになりました。	動線と開けた活動場所に配慮をしてレイアウトを変更しました。最低基準よりも広い活動スペースをしっかりと確保しています。
	② 職員の配置数は適切であるか	100%		・利用者の人数に合わせています。 ・基準より多く配置しています。	パート職員も合わせて基準よりも多い人員配置ができています。今後はより安全で効果的な体制構築の検討をしていきます。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	91%	9%	・環境整備を行い、以前よりわかりやすい空間にしました。 ・構造化された空間づくりに配慮していますが、バリアフリー化はなされていません。	来所して靴を脱ぎ、自分の持ち物を置き、手洗いに向かうという動線を意識しています。ただし、部屋が明確に分かれていないため、ある程度同一の環境内で活動することもあります。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%		・手指の消毒、空気清浄、マスク交換など十分な対応をしています。	午睡や外部刺激を減らしたい時の部屋を準備するなどして、安定して過ごせる配慮をしています。また、できる限りすっきりとして物品が散らからない配置を考えました。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%		・毎月数回、定期的に行われる会議に全職員が参画しています。	checkからactへの流れが滞ることが多いため、サイクルのスピードにも意識して運営にあたっていきます。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%		・保護者の評価もともに業務改善につなげています。	・利用者の意見も積極的に取り入れていきたいと考えています。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%		・評価の集計結果を家庭配布し、ホームページでも公開しています。	ホームページに掲載しています。その他、SNSなども活用した周知方法を検討していきます。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	64%	36%	・第三者による外部評価は行っていません。 ・外部のマネージャーのアドバイスにより業務改善につなげています。	今後、第三者評価を実施した場合は、迅速にお知らせするようにいたします。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%		・毎月、社内会議で研修しています。 ・外部研修にも積極的に参加しています。	定例での支援会議の継続と、外部講師の活用をより積極的に導入していこうと考えています。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	91%		無回答9%	定期的な再アセスメントを実施している。より多くの職員が多角的な視点から児童の育ちを捉えられるようになることを目指します。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	73%	18%	無回答9% ・年齢に応じたアセスメントツールを作成していますが、活用されていません。	時期や個々の状況に応じて活用できるアセスメントツールの選定、策定が必要と感じています。保護者に過度な負担とならない方法を検討していきます。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	91%		無回答9%	直接支援に関わる部分については意識して計画ができていますが、家族支援や地域支援の視点での計画は改善の必要があると考えています。感染防止に努めながら、今後意識的に計画を立てていきます。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	91%		無回答9% ・日々、状況が変わる子どもたちの変化を報告し合い、支援や計画の改善を行っています。	計画と実践の乖離をできる限り少なくできるように、職員間での意見交換や支援の方向性の統一に努めています。チームとして振り返りを行う機会を増やしていきます。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%		・打ち合わせの時間を確保し、立案しています。	役割の担当を設定したり、会議に提案したりと全体で把握する機会を設けています。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			固定化しないように事前に月間の計画をつくるなど配慮しているが、当日の児童の構成や人数等によって変更せざるを得ないこともあります。

	⑩	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	73%		どちらともいえない27% ・計画しても職員の数により、できない日もあります。	個別の配慮をした支援は比較的できていると考えますが、言語指示が通じづらい児童の小集団へのアプローチ方法については、さらなる学びと経験が必要であると感じています。
	⑪	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%		・朝の打ち合わせで確認しています。	朝のミーティングを活用しているが、パート職員など時差がある出勤となる際の情報共有方法を改善していく必要があると感じています。
	⑫	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	64%	18%	どちらともいえない18% ・送迎業務のため終了後に実施できないため、翌朝行っています。	天候や送迎業務によって一同に会しての場が設定できない場合は、翌日の朝にミーティングに持ち越す等をして機会の確保に努めています。
	⑬	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%		・対応した職員が個別に活動記録表に記入するシステムが整っています。	記録はしっかりとできているが、記録における業務効率化を目指し、直接支援に注力できる体制構築を目指します。
	⑭	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			成長スピードを考慮して、より適切な時期にモニタリングをできるシステムをつくる必要があると感じています。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑮	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%			自事業所のみでサービスを利用しているケースも多く、効果的な担当者会議が開催される頻度が低い。積極的に機会を発起できる力を事業所でつけていく必要があると考えています。
	⑯	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%			適切な機関との連携はできていると考えています。今後は合同カンファレンスなどの機会をつくれるよう検討していきます。
	⑰	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	18%	55%	無回答27%(対象児がない)	医療的ケア、重症心身障がい、強度行動障がいにおける対応については、知識を広げることが必要であると感じています。お引き受けできるかの体制は別として、学びの機会を設定していきます。
	⑱	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	18%	55%	無回答27%(対象児がない)	上記に同じです。
	⑲	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	73%	9%	どちらともいえない18% ・一部の幼稚園に限られています。家庭を通してまたは送迎時に情報共有を図っています。	関係機関との直接的な情報共有の機会を増やしていきたいと考えています。自事業所で見せる児童の様子と、家庭やその他の場所での表出など、多面的に対象児童を理解していける意識をつくっていきます。
	⑳	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	73%		どちらともいえない27% ・今年度は実績はありませんが、学校からの要請がありました。	小学校入学時には主に保護者より直接情報伝達をしてもらっていることが多いです。今後、もし必要があれば情報共有や支援経過を伝達できる体制を構築していきます。
	㉑	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	91%	9%	・札幌の事業所と連携を図っています。	事業所同士での研修機会や見学などを実施しています。感染対策しつつ、今後交流や相互研修の開催を検討していきます。
	㉒	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	73%	18%	どちらともいえない9% ・現況です。児童センターや子育て支援センターの子どもたちと活動する機会を作っています。	外出企画など、地域の場に出ていくことで、遊びや交流を持つ機会があります。ただし、形式的に交流を目的とした企画は感染対策の観点からまだ難しいのが実情です。
	㉓	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	73%	9%	どちらともいえない18%	・機会があれば積極的に参加していきます。
	㉔	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%		・連絡ノート、送迎時に子どもの様子をお伝えしています。	日々、保護者の皆様と気兼ねなく気になっていることを伝えてもらえる関係性をつくることを目標としています。
㉕	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	64%	18%	どちらともいえない18% ・個別に気づいたことをお伝えしたり、相談に応じています。	形式的なペアレント・トレーニングの機会はありません。今後、保護者にも参加いただけるプログラムを試行していきたいと考えています。	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%		・契約時にお伝えしています。	契約時のほか、気になったことがあれば気軽に確認してもらえる体制を整え、迅速に返答できるように努めます。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%			スモールステップと発達段階を意識して計画を作成しています。家庭支援と地域支援の視点はより学びを深めつつ、計画に反映させていきたいと思っています。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	91%		どちらともいえない9% ・定期的には実施できていませんが、ご相談には担当職員が迅速に対応するよう心がけております。	どの職員が相談を受けても、お子さんの状況を把握し、適切な助言が行えるようにしていきたいと考えています。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	55%	36%	どちらともいえない9% ・父母の会はありません。保護者同士がかかわる機会はありませんが、コロナの状況をみながら1回保護者会を開催できました。	保護者同士が交流を望んでいるかも確認しつつ、顔を合わせる機会は意識的に設定していきたいと考えています。保護者会は定期的に開催できるよう準備を進めていきます。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%		・子どもからの申し入れに対応する受け皿があるかどうかは不明です。	言語化できないお子さんの要望やニーズを受け止められるように工夫が必要と考えています。保護者とは対面や電話のほかにもSNSなどのツールの提示をしています。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			ホームページでの活動報告やお知らせのほか、SNSを利用した発信もはじめました。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%			事前の同意書に基づく取り扱いを徹底しています。今後も取り扱いに注意して運営していきます。
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			言語的な意志伝達以外で発信できる方法や支援を考える機会を設定しています。より学びを重ねて適切な方法を提示していきます。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	18%	72%	どちらともいえない9% ・地域の方を招待する活動は実施できませんでした。	・地域の清掃活動などに取り組んでいくことを検討しています。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%		・マニュアルに沿って毎月訓練しています。	マニュアルに沿った行動を実践できるように定期的に訓練を実施しています。形骸化しないよう気をつけ、有事に備えたいと考えています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%		・毎月シチュエーションを変えて訓練を行っています。	毎月、想定されるシチュエーションを変えて、定期的の実施することができています。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%		・契約時に確認しています。その後、年度初めに確認しています。	迅速な対応が必要な状況を確認した場合、意思決定や緊急連絡についてどの職員も統一した対応ができるように準備をしています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	100%		・契約時に確認しています。該当者は、医療機関の関係書類や同意書の提出をお願いしています。	契約時のほか、必要に応じて事業所における対応について保護者からの同意書を取得するようにしています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%			都度、該当することがあれば、個別記録や支援会議にて共有に努めています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%		・毎月チェックリストの記入をし、振り返りを行っています。 ・研修会に参加しています。	次年度の虐待防止委員会の設立に向けて、担当者や研修時期を計画しています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%		・契約時や支援計画作成時、また、必要に応じて説明しています。	説明を行うと同時に、身体拘束によらない支援のあり方を模索するように、チームで議論することを大切にします。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。